

自分と家族、愛する人を守るために

風水害から身を守る

災害は人ごとだと思っていないですか。しかし地震、豪雨、台風の脅威にさらされる日本に生きる私たち。いつ起こるか分からない自然災害の脅威を知りつつ、備えないままではいけません。自分と家族、愛する人を守るために、今できること、すべきことがあります。



避難準備情報、家屋倒壊等、市内で被害多発

6月は九州を大雨が襲い、市内でも土砂崩れによる家屋倒壊や床下浸水など多くの被害が報告されました。
現在も集中豪雨や台風が多い時期であり、引き続き風水害の発生などが予想されます。

比較的災害が少ないといわれる小林市でも台風や大雨による土砂災害は頻繁に発生していますので、今後注意が必要です。

合併後の「新」小林市地域防災計画を策定

市では、平成23年3月に小林市地域防災計画を策定しました。これは、市の



小林市地域防災計画
(平成23年3月策定)

地理的状況や人口・世帯数等、様々な社会環境を踏まえた、各災害に対する防災計画を網羅しています。
特徴として、県の地域防災計画に準拠し、旧小林市・旧野尻町の防災計画との継続性を確保、国の防災基本計画の内容や近年の災害の教訓等を踏まえ改善し、作成されました。

[6.19]大雨による土砂崩れが家屋にせまる



防災訓練や消防団の活動で、自主防災力を強化

- [H23.5.22 細野3区瀬田尾、上旭台防災訓練] 新燃岳噴火を想定し、住民のほか消防団第2分団も広報に参加。避難訓練後、県職員による講習会を開催。
- [H23 6.11 野尻町区角内地区防災] 台風による激しい雨と風を想定。公民館への避難訓練後、災害図上訓練(DIG)や救急救命講習などもあった。
- [H23 6.12 須木区美穂の里避難訓練・防災講習会] 須木永田区に土砂災害警戒情報発表、避難勧告発令を想定。施設内での避難訓練が行われた。
- [消防団] 大雨時の地域見回りや土嚢作りなど、日夜その活動に当たっている。

「自分の身は自分で」が、被害を減らすカギ

災害が発生した場合、市や消防機関等は全力をあげて防災活動を行いますが、「電話が不通」「交通の阻害」「同時多発する火災」などの理由で防災関係機関の活動能力が著しく低下することが予想されます。

このような事態においては、住民自ら被災者の救出・救護、避難誘導等を行うことが必要となります。自主防災はコミュニティ活動の一貫です。大規模災害発生時の初動は地域住民で作る自主防災が減災のカギを握って

います。

普段からの情報収集でいざという時に備える

災害が起こったとき、重要になるのは避難や災害状況などの情報です。

素早い情報収集は、災害による被害を最小限に食い止めることに役立ちます。これから梅雨終盤や台風シーズンを迎えるにあたり、豪雨や台風など、起こりうる災害への備えとして、情報の大切さを再度確認してみましょう。

防災メール(次ページ参照)やテレビなどで情報収集に努め、もしもの時に備えてください。

減災のカギを握る

自主防災力

家庭・地域でできること

